

要 望 書

中華人民共和国駐日本国特命全権大使 崔天凱閣下

時下麦秋の候、閣下におかれては日中友好のためご尽力下さり、心より感謝いたします。私たちは、富山県において、ハンセン病患者・回復者への差別解消と、回復者支援の運動をおこなっている市民団体です。この度、貴国の『京華時報』、及び『北京週報』日本語版の報道によると、6月2日に北京五輪組織委員会が発表された「五輪期間における外国人出入国・中国滞在期間に関する法律指針」には、「五輪開催期間中の入国が禁止される」外国人として「精神病・ハンセン病・性病・開放性肺結核の伝染病に罹患している」者が挙げられておりましたが、私たちはこれを読み、驚きを禁じえませんでした。

このような措置は、医学的に必要でないばかりではなく、精神障害者、ハンセン病患者・回復者、エイズなど性感染症患者、結核患者への恐怖感を生み、差別・偏見を助長する虞があります。こうした疾病の患者・回復者への差別・偏見をなくすことは、日本国内でも、また世界でも主要な世論となっております。どうか、貴国の北京五輪組織委員会に対し、このような入国禁止措置を撤回するよう、閣下からもお伝えください。そして、こうした病者・障害者の方々も北京オリンピックを楽しく観戦できるよう、ご配慮いただきたく思います。

私たちは、平和の祭典として、心より北京オリンピックの成功をお祈りしております。

2008年6月11日

ハンセン病問題ふるさとネットワーク富山